



島根大学 支援基金だより

Vol.6
2020 Apr.

副学長(グローバル化推進担当)からの挨拶



副学長(グローバル化推進担当)
でぐち あきら
出口 顕 島根大学法文学部社会文化学科 教授

自らの価値観に拘泥せず、
壁を低くできる姿勢を学生に培ってほしい

日頃より、多くの皆さまに「島根大学支援基金」へご協力
とご支援をいただき、心より感謝申し上げます。

さて、グローバル化とは情報通信網や交通輸送手段の発達
によって人・物・資本・情報の国際的移動が活性化して、世
界的規模での結びつきが深まることを言います。国境の意義
があいまいになるというこうしたボーダーレス化が進むと、
多文化共生社会が実現し、異なる国々の人たちも、同じよう
な尺度・価値観に基づいて交流すると思われています。しか
し現実には、雇用機会の減少や治安面での不安から移民や難
民の排斥が後を絶ちません。ボーダーレスとは逆向きに国家
の壁を強固にする動きも進行しています。イギリスのEU離脱決定はそうした動きの一つです。

このような時代にあって、外国語を駆使して異なる国の人たちとコミュニケーションできる能力を育
成するにとどまらず、外国人排斥など多文化共生をはばむ課題に直面したとき、自らの価値観に拘泥せず
柔軟に対応でき、壁を低くできる姿勢を学生に培ってもらい、ダイバーシティなキャンパス作りを促進
することが島根大学が目標とするグローバル化の推進です。

世界の今が抱える現実を
肌で感じ取り成長できる糧とするために

すでに島根大学にはグローバル化時代の抱える
諸問題に取り組もうとする意欲的な学生が数多く
います。そのような彼女や彼らたちが海外に出か
けて行き、世界の今が抱える現実を肌で感じ取り
成長できる糧となるべく、島根大学支援基金には
グローバルチャレンジ奨学金制度があります。こ
の基金によってこれまで多くの学生が交換留学だ
けでなく、海外でのボランティア活動などに翔び
たっています。島根大学ではこのような学生を今
後も数多輩出したいと考えています。この主旨に
ご賛同いただける方は、是非とも島根大学支援基
金にお力添えをお願いいたたく存じます。



1. 坪倉愛佳さん/法文学部言語文化学科2年/アメリカ フロリダ大学 / 2019.8~2020.5 / 1-1:ナビゲーター(交換留学生をサポートするクラブでパートナーになった方)と一緒にメキシカンレストランに行った。1-2:9月にフットボールゲームを観戦。
2. 福尾静花さん/法文学部言語文化学科2年/アメリカ アーカンソー大学 / 2019.8~2020.5 / 島大で知り合った(アーカンソー大学の学生が島大訪問時)友達とその家族とご一緒に Thanksgiving Day を過ごした。
3. 山下魅七海さん/法文学部言語文化学科2年/タイ タマサート大学 / 2019.8~2020.5 / 3-1:2月に友人と大学のフットボールの試合を観戦。3-2:タイの大学では制服を来ることが義務付けられている。

※氏名/学部学年/留学先/留学期間/写真の説明の順に掲載



支援基金HP

<https://www.fund.shimane-u.ac.jp/>



支援学生の声

2018年度 グローバルチャレンジ奨学金受給者

法文学部言語文化学科 昌子 有貴さん

私は2018年8月、ベナン共和国に行きました。現地ではホームステイをしながら、孤児院ボランティアや農業体験など、短期の渡航でしたが様々な活動ができました。孤児院では、子供とのふれあいだけでなく、院の運営についても学び、スタッフの仕事や経営資金の扱い方を知りました。また、農場ではベナンならではの作業を実際に体験して、現地の方に農業の現状をインタビューすることができました。この活動は2019年のアフリカ長期留学にも繋げることができたので、非常に得るものが多かったです。渡航にあたっては、アルバイトで貯めた資金を活用しましたが、島根大学支援基金から奨学金をいただいたことで、現地滞在をさらに有意義なものにすることができました。ご支援ありがとうございました。この経験を活かし、今後も様々なことに挑戦していきたいと思います。



1. ベナンでポピュラーな農産物であるパイナップルの苗を手作業で植え
ている様子
2. 3. 孤児院の仕事を手伝っている様子

支援を受けた人は今・・・

支援を受け、現在は社会で活躍中の 卒業生をご紹介します



小川 菜実子さん

2018年にグローバルチャレンジ奨学金を受給し、約半年間中国に留学。2019年3月人文社会科学研究科を卒業し、現在は、島根大学の職員として勤務している。



▲北京師範大学の教室で集合写真

交換留学にあたり、皆様からのご支援を頂き、大変充実した留学生活を送ることができました。本当にありがとうございます。

私は大学院2年後期の半年間を北京師範大学で過ごしました。渡航前後は旅費や住居費などで出費がかさむことを心配していましたが、ご支援のおかげでその心配も無くなり、大きな不安なく留学に臨めました。また、授業が始まってからも、基本的な生活が支えられているため、学業や課外活動に精を出すことができました。勉学のほかに、書道や卓球で中国人学生と交流したり、校外研修にも参加したりして、留学したからこそ味わえる異文化や土地の広大さ、また国境を越えた友情を感じることができました。

そして現在は、島根大学の職員として働いています。留学を通して得た経験を、母校である島根大学に仕事を通して還元していきたい、そして私と同じように留学等に挑戦したい学生や島根大学を選んで学びに来てくれる留学生を様々な形で支援したいと強く思います。このように、充実した留学生活を送ることができ、また自己実現に向けて日々邁進することができるのも、皆様からの支援があったからこそだと思います。心より感謝申し上げます。